

料』のような制度上の史料はもとより、教科書・教具・教鞭物等、具体的な、しかも基本的な史料を用いながら調査を進めた。とりわけ、女紅場・高等女学校における手芸教育の実体分析に重点をすえた。

3. 上述のような研究操作をへた結果、明治初年の手芸教育の実体について、これまでの研究では明らかにされていなかったいくつかの点を発見し、さらに、今日及び将来の手芸教育に通ずる重要な問題点についての示唆が得られたので、本大会での発表を希望することとした。

G-9 近代学校における手芸教育の展開過程について—第1報—

和洋女大家政 ○桜井映乙子
石川松太郎

1. 明治初年以後、「国民教育」の確立を目指して、小学校を基底とする学校体系が着々と築かれ、教育の近代化が計られるようになった。こうした学校制度の成立と教育の近代化の中にあつて、「手芸」もまた教育課程の一つに組み込まれて行くのであるが、その際、指導の目標、方法、教材の選択、さらには、伝統的に磨き抜かれて来た技術と新たに海外より移入されて来たそれとのかかわりあいなどに、多くの問題を生ずるに至った。この間の事情を、実証的分析するのが本研究の目的である。今回は、近代社会の黎明期ともいふべき明治初年より20年前後までを主要な研究対象とする。

2. 上記の時期における小学校、女紅場、中等学校等の成立・発展・普及の実情と手芸教育との関連を分析するため、『明治以降教育制度発達史』、『日本教育制度史